第９回安曇野市総合計画審議会 会議概要

１　審議会名	第９回安曇野市総合計画審議会
２　日　　時	平成 24年12月19日　午前10時から午前11時30分まで
３　会　　場	長野県　安曇野庁舎　講堂
４　出席者	川上（齊藤委員）代理、宇留賀委員、那須委員、木下（宮島委員）代理 北原委員、油井委員、沼尾委員、望月委員、沖（板花委員）代理 山本委員、清澤委員、矢花委員、青木委員、増田委員、千國（温）委員 遠藤委員、三好委員、松井委員、大屋委員
５　市側出席者	宮澤市長、中山企画財政部長、藤松企画政策課長、細田企画担当係長 黒岩副主幹、中村主査
６　公開・非公開の別	公開
７　傍聴人　１人	記者　３人
８　会議概要作成年月日	平成25年1月4日

協　議　事　項　等

協 議 事 項 等

１ 会議概要

（１） 開 会

（２） 会長あいさつ（沼尾会長）

（３） 議 事

ア 総合計画（素案）の検討について

（４）答申書の受領式

（５）その他

（６） 閉 会（望月副会長）

２ 審議概要

ア　総合計画（素案）の検討について

事務局　資料１「安曇野市総合計画　基本構想、後期基本計画（素案)」、「答申書（カガミ)」（事務局説明）

会　長　総合計画（素案）全体のイメージがつかめないという意見があり、それに対応するために、「答申書（カガミ)」に総合計画（素案）で示す市の目指すべき姿を表した、との説明です。

質問、意見を求めます。

委　員　基本計画の123ページ。【施策指標】の「市職員数」の現在（H23）750人から目標（H29）749人の一名減となっていますが、数字だけが一人歩きしてしまうので何か補足説明などが必要です。

また、市役所の仕事は、いくつかの部署が分担していますが、この総合計画の実施にあたり、単純にその組織図に当てはめ担当部署で割り振りしただけでは、充分でないものが幾つもあります。事業によっては横断的なプロジェクトをつくり、検討、コントロールをするという説明でしたが、日常業務の中で、横断的なコミュニケーションがきちっとできるか心配です。スムースに実施されるように工夫してほしいです。

事務局　前期基本計画は、平成19年度に策定され、市職員数の目標は、中間目標（H24）は770人、最終目標（H29）を749人としています。

現状の市職員数は、750人であり、前期計画で定めた目標以上に削減が進んでいるため、見直しではなく前期計画の最終目標（H29）749人を維持しました。

会　長　前回の審議会でも、同じ趣旨の質問・意見がありました。今回も誤解を生じる恐れがあるとの指摘がありました。事務局は、職員数の施策指標を変更しない考えですか。

事務局　前回審議会の事務局の説明で、理解いただいたと思い、修正しませんでした。

しかし、先程、指摘があったとおり、一般の市民の方が見て、これをどう取るかについて微妙な点もあります。本審議会の判断をいただき、施策指標そのものを削除することも検討します。

委　員　　前回審議会で、市職員数の施策指標について指摘し、削除されると思っていました。ＰＤＣＡというのが非常に大事です。プランをつくって、どのようにチェックしアクションを起こすのか、ＰＤＣＡは、企業ではごく当たり前のことです。５年後の評価時に１名減り、達成したという結果になるのであれば、この施策指標は削除してほしい。５年間で社会情勢が大きく変化して、職員数20％削減を打ち出すのなら良いが、１名削減を目標とするようでは、ものすごく批判が出てしまう。

会　長　　それでは、この施策指標は、削除します。

もう１点、縦割りではこの計画を実現していくのは難しい、それについての配慮はどうなっているのか、という趣旨の意見です。

事務局　　縦割り、という意見については、市では、政策会議という各部と市長、副市長と主要な施策等の内容について審議する場を設けています。例えば、新エネルギーについては、企画財政部が中心になり、農林部、環境部などの関係部を集め、会議を行っています。横断的に様々な会議、委員会、プロジェクトチームをつくって積極的に行っています。行政は縦割りである、という声もあり、今後この計画がスムースに進むように横の連携も含め、また内部で部長会議等でも話し合いの機会を設けて対応します。

会　長　　日常的に、固い組織をつくり横の連携をとるというのは、現実にはそぐわない対応です。事務局からの説明のように、問題・課題ごとにおいて、柔軟にプロジェクトチームなどの横断的な連携をつくり、壊したりする方が現実的な対応です。

役所に限らず、縦割りというのは確かに不効率を生じる場合、良くない結果をもたらす場合がありますが、組織としては、ある意味、効率的な仕事の分業体制です。その上で課題に応じ、組織の連携を構築していくしかないと考えられます。

委　員　　総合計画（素案）へ書き込むとか、答申書の項を起こすとかそういう意味ではなく、お題目に終わらないで、本当に血が通うものにしたい。恒常的にチェック機能を持ったセクションをつくってほしい、ということではありません。

会　長　　職員同士で横の連携をつくるというのは、望ましいが難しいです。やはり管理職なり、市長のリーダーシップが重要です。組織をつくれば解決する問題ではないと思います。

委　員　　68ページ、【基本方針】の３行目、「質の高い情報を提供できる「情報センター」を目指します。」というのは、大きな意味があるが、どのように考えていますか。

事務局　　「みらい」、「きぼう」等ができ、図書館の利用者が大変伸びている状況です。また、平成21年度に図書館基本計画が、前期計画策定後に策定されたことから、新たに書き加えました。

会　長　　【具体的な施策】ではどのように受けていますか。

事務局　　生涯学習施設の整備で、図書館を核とした生涯学習施設の整備、機能充実を図るということで、69ページの③「生涯学習施設の整備」の「市内図書館ネットワークの中核機能を持った中央図書館と図書館サービスが市内全体で受けられ」で受けています。

委　員　　【基本方針】に「情報センター」と明記する必要があるでしょうか。いきなり「情報センター」という名前が出てくるのは、図書館だけが特に何かやるというような誤解を受けると思います。

会　長　　逆に、図書館を特に外す必要もないと思います。つまり、生涯学習施設というものがあり、図書館も生涯学習施設の一つであれば、図書館と明記することにさほど違和感はないと思います。

事務局　　新たな交流センター、図書館を含めた生涯学習施設も新しく設置され、拠点的な中央図書館もできつつあります。また、今後、各地域の図書館機能も充実していきます。所管課ではそれを捉えて今回、図書館を基本方針の中に入れました。

この「情報センター」という言葉が、箱物を意味するのではなく、いわゆる情報を提供できる中央図書館、あるいはそういうものを総じて、総合的な拠点という位置づけであるということで、69ページの【具体的な施策】に繋げたという所管課の考えです。

会　長　　具体的な何か施設、建物を情報センターという言葉で示しているものではない、との説明です。機能、働き面に着目して、図書館がそういう役割を担えるような、そういう姿を目指しているという趣旨です。

委　員　　今の情報センターのところのカギカッコ。これは、カギカッコがついていると割とイ

メージが強く感じるので、カギカッコを外したらどうでしょうか。
会　長　　他もすべてということですか。
委　員　　「情報センター」というところだけ。
会　長　　図書館については【現状】、【課題】、【トピック】にも出てきます。
委　員　　そうですね。
会　長　　【現状】では、生涯学習施設、図書館に段落を設けているので、読む側としては段落があった方が区別がつきます。むしろ、こういった段落設定の方がわかりやすいということが言えます。
委　員　　「情報センター」ではなく「情報のセンター」で、「の」を入れたら解決します。
会　長　　議事録にも「情報センター」というのは箱物ではないと残り、段落を変えるとか、「の」を入れなくても、言質は取ってありますので、原案のままとします。
　他の意見を求めます。
委　員　　一番大事なのはこれからです。ＰＤＣＡをどう回していくかということに関して、我々委員は、今後どう監視できるのでしょうか。
　積極的な産業振興で雇用の場を確保するには、農業と観光を結び付けるというかたちもありますが、どのように進んでいくのでしょうか。あるいは、安曇野市としてはどのような新エネルギーにどのように取り組んでいくのでしょうか。また、農業をどのように守っていくのか、観光も目玉がありません。このようなことにどう取り組んでいくのか、興味を持って、言葉だけではなく、どうなるのかＰＤＣＡをチェックしたいです。
会　長　　委員の心構えとして常に堅持すべき、という意見です。
委　員　　途中経過を我々委員は知ることができますか。
事務局　　後期基本計画を今後５年間の事業の柱として捉え、後期基本計画に基づき３年間のローリング方式で毎年実施計画を策定しています。これは財源を見込んだもので、毎年公表しています。
　ＰＤＣＡについては、３千以上の事務事業のうち約400事業が評価対象となっています。評価対象の事務事業は、市民に知らせるべきもの、関心が高いもの、事業費の大きいもの、時代の中で重要な課題についてＰＤＣＡのサイクルで行政評価を実施しています。評価対象の事務事業の中には、外部の第三者による外部評価を取り入れ、事務事業評価を実施している事業もあります。
　現在、外部評価分については公表していますが、約400事業の評価対象事務事業については、公表していません。次年度以降、公表を予定しています。
委　員　　積極的な産業振興では、やはり新エネルギー、農業、観光に力を入れてほしいです。
　本当に大事なのは今後です。
会　長　　意見、感想になります。他に何かありますか。よろしいでしょうか。
　それではこの素案をこの後、答申として、市長に提出します。
　どうもありがとうございました。

（４）答申書の受領式
事務局　　先程、確認をいただいた答申により、会長の方から市長へ答申をします。
会　長　　９回の審議会の審議を踏まえてまとめましたものを答申致します。特に、こちらに示しました配慮事項については、ご承知いただき、達成に向けてご努力をされることを要望致します。
（会長から市長へ総合計画（素案）の答申書を手渡す。）
事務局　　はい、ありがとうございました。ただいま、市のほうで答申を確かにお受け取り致しました。それではここで、宮澤市長からご挨拶を申し上げます。
市　長　　ただいま答申をいただきました。一言御礼のご挨拶を申し上げさせていただきたいと思います。委員のみなさまがたにおかれましては、大変長きにわたるまちづくりのご審議をいただきました。心から感謝を申し上げます。誠にありがとうございます。また、沼尾先生におかれましては、お忙しい中、会長職をお務めいただきまして、改めて御礼を申し上げます。
　２月１日の諮問時にも申し上げましたけれども、本市を取り巻く状況、大変厳しいものがございます。中堅、大手の企業が閉鎖し、製造業は海外へシフトする産業の空洞化

が、進んでおりまして、雇用情勢が極めて厳しいと言わざるをえません。また、当市におきましても、高齢化率が近隣市町村よりも高い状況です。そして人口減少時代が、本格的な高齢化時代が到来をする、このような状況にございます。昨年の３．11を契機にしまして、震災による安心・安全への関心の高まり、そして行政の責任の重さということも増してきております。

こんな中で、経済のグローバル化により、産業基盤が弱体しているという現状、そして、一方では市としては、医療、福祉、教育予算が年々増大をしていて、一般会計が極めて厳しい状況になっています。この審議会におきまして、市民の意向調査、市民ワークショップ、さらには中学生のワークショップなど、いろいろなかたちで意見をお聞きし、前期基本計画の検証等、さまざまな観点から、現在の本市の置かれている状況や課題を勘案していただき、後期基本計画から基本構想の一部を変更するまで審議をしていただきました。

先程の委員のみなさま方の真剣、そして熱意あるまちづくりの思いが込められた答申書を踏まえまして、安曇野市のこれからの助け合い、そして生き生きと暮らせる健康長寿のまちづくり、さらに全国に誇れるようなまちづくりを進めて、合併して良かったという成果が出せるようにこれからも取り組んでいかなければならないという決意を新たにしているところでございます。

それぞれのお立場で今後ともさまざまな、また、お力をお貸しいただきまして、安曇野市の発展にご協力、ご支援を賜りたいというように思っています。

最後になりましたけれども、年末の、あと本年も残すところわずかになりました。まだ寒い日が続きます。健康には十分ご留意いただいてご活躍をいただきますことと、安曇野市に対する一層のご支援、ご提言等賜りますことをお願い申し上げまして、一言御礼のご挨拶とさせていただきます。大変、ありがとうございました。

事務局　ありがとうございました。誠に失礼でございますけれども、市長また部長、このあと議会本会議を予定しておりますので、退席をさせていただきます。

市　長　それでは恐れ入ります。失礼致します。ありがとうございました。

部　長　先に失礼いたします。ありがとうございました。

（５）その他

会　長　それでは次第「その他」で、事務局から説明を求めます。

事務局　審議ありがとうございました。事務局から「その他」ということで何点か報告します。

ただいま、答申を受けた、総合計画の素案の今後の扱いについて、確定までのスケジュールを報告します。明日、基本構想の部分については、５地域の地域審議委員会から答申を受ける予定です。また、答申をいただいた後、市として総合計画の案として年内12月27日からパブリックコメントを実施します。

それと並行して、安曇野市議会の議員に説明をして意見をいただきます。それらを経まして、３月に確定版とする予定です。基本構想の部分については、３月定例会に議案として上程する予定です。今回ご参加をいただきました委員には、大変な審議ありがとうございました。確定版につきましては４月になりますが、みなさんの元へ配布をさせていただく予定です。

また、市のホームページにおきまして、総合計画書ということで公開します。その時点で審議会での審議状況の写真、あるいは委員の名簿についても公開をさせていただきますので、ご了解をお願いします。

また、本審議会の任期は、委嘱を２月１日に申し上げ、来年３月31日までの任期ということでございますが、実質的には本日の審議会が最後の審議会となります。

本当に、長い間ご苦労さまでございました。最終回ということで、沼尾会長からご挨拶を頂戴したいと思います。

会　長　実質今日が最後の審議会ということでございますので、簡単でございますけれどもご挨拶を申し上げます。９回の審議会でございました。非常に熱心なご議論をいただきました。また、会議の運営におきましては一方ならぬご協力を頂戴いたしました。改めまして感謝申し上げます。

そもそも、審議会をつくって、例えばこのような総合計画をつくる、個別の計画についても同じような手法を取るというのは、まだ綿密な調査がされていませんが、どうも自治体、国もそうですけれども、日本の行政の特徴の一つではないかというような意見がございます。言い換えますと、このようなかたちで、例えば、欧米で計画をつくっていくというのはそうは多くありません。全くないということではありませんが、むしろ、近年では特に盛んにそういった方法を取るようですけれども、どうも日本の比ではないようです。

なぜ、日本では多くの審議会をつくって、行政は運営しているのだろうかということを考えますと、いろいろな指摘がありますが、理由の一つとしては、計画の段階で、このようにほとんど審議会はオープンになっていますので、審議の経過内容を審議に参加している委員だけではなくて、市民の人たちにも明らかにして、公開することによって、計画の段階から行政のやることを監視していく、あるいは参加して決めていく。非常に透明度の高い行政運営といったものが期待できるのではないかと、このようなことから、審議会の方式をとっているのではないかということは、間違いなく言えることだと思います。

もう一つは、今日はもう一つだけに留めておきますが、国でもそうですが、計画をつくった後のことを考えて、おそらくはこういう審議会方式を採用しているのではないかと。つまり計画を実現していく過程で、計画に市民を参加させ、それを公開する、それを通じて計画をつくった後に、それを実現していく過程でやはり同じように国民・市民の協力を確保していきたいと、そうして計画を進めていきたい。ですから、計画をつくった後に強い反対にあうのであれば、計画の段階でそういった反対意見もその計画のなかに織り込んでいくことによって、より効果的に効率的に、計画が推進できるのではないかという期待があるからこそ、このような審議会方式を採用しているかと推測できます。

このようなことから、先程もご意見ございましたけれども、こういう計画がようやくスタートし、計画実現に向けての出発点が今日になるということになるのでしょう。従いまして、先程、これもまたご意見ございましたように、いかにそれを監視していくか、あるいは、この計画は今の段階ではまだまだ抽象的で、非常に概括的なことを並べているに留まっています。そういったところにご不満があるかもしれませんが、総合計画である限りはある程度そういったことは致し方ないということであれば、その計画が総合計画に盛られたことが肉付けされていく中で、さらに市民の声がそこに反映されていく、させていくということが必要になっていくと思います。

私は安曇野市民ではございませんので、ある意味、傍観者の立場でこういったことが言えるのでしょうが、みなさま今後この計画の実現やその過程におきましては、いろんなことを言ったり、あるいは、声を上げることがない市民の声をそこに反映させることができるようなそういうご努力をされていくことを、私としては希望致します。

最後、本当に熱心なご議論ありがとうございました。再度御礼申し上げます。

以上をもちまして、第９回審議会の議事を終了致します。

望月副会長ご挨拶をお願い致します。

（６） 閉 会（望月副会長）

副会長　（閉会のあいさつ）